

メデイカル メガバンク通信



メガバンク・データ管理部門



岩手県内全5か所のサテライトが開所し、
各所で健康調査が行われています。

IMMいわて東北メディカル・メガバンク機構では、沿岸地域での活動拠点として「サテライト」を設置しています。現在、久慈サテライト(久慈市)、宮古サテライト(宮古市)、釜石サテライト(釜石市)、気仙サテライト(住田町)の4か所と、サテライトの中核機能とスタッフの教育拠点を兼ねた矢巾センターの全5か所にて、サテライト型健康調査が行われています。



10月23日に開所した釜石サテライトでの健康調査の様子

平成26年度 地域住民健康調査

引続き、皆さまの協力をお願いいたします。

特定健診参加型健康調査

5月8日からスタートした平成26年度の特定健診参加型健康調査は、11月11日をもって終了いたしました。本年度は5市町村（大槌町、宮古市、釜石市、岩泉町、田野畑村）を対象とし、各健診会場に当機構のスタッフが outgoing、調査を行いました。各自治体の皆さまの多大なるご協力のおかげで、のべ142日間（153会場）実施した調査は無事終了し、9002人の方にご参加いただきました。

各自自治体の皆さま、ご参加いただいた住民の皆さまに心よりお礼申し上げます。次年度も引続き、皆さまのご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。

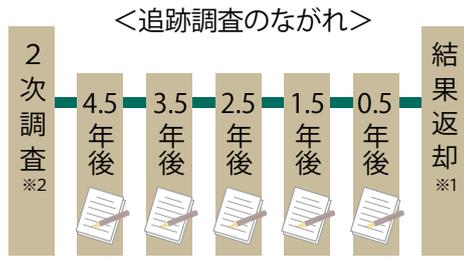


● 追跡調査がはじまっています ●

IMMでは、健康調査後、数回にわたりその後の皆さまの様子アンケートでお伺いしています。初回の調査票より質問量は少なく、記入時間は15分程度です。

ご面倒に思われる方もいらつしやるかと思いますが、皆さまの身体や

こころの状態を詳しく調べるために必要なものですので、ぜひご返信にご協力ください。



※1 検査結果のお返しには、4ヶ月ほどお時間をいただきます。
 ※2 2次調査では、今回と同様の健康調査を行います。



IMMの健康調査は、一人ひとりの健康状態を数年間にわたり追跡し、未曾有の震災ストレスによる健康への影響などを調べます。皆さまのご協力をお願いいたします。

サテライト型健康調査

サテライト型健康調査は、現在沿岸地域4か所（久慈、宮古、釜石、気仙）のサテライトと、矢巾センターにて実施しています。

各サテライトには、地域ごとにスタッフが配属されており、それぞれで健康調査が行われています。サテライト型健康調査は、完全予約制ですので、調査への参加をご希望の方は、必ずご予約の上、各サテライトまでお越しください。

久慈サテライト

旧アレン国際短期大学
 学生ホール（久慈幼稚園 横）
 028-0052
 久慈市本町3-11



宮古サテライト

岩手県立宮古病院 5階
 027-0096
 宮古市崎ヶ崎 1-11-26



釜石サテライト

チスガビル 3階
 026-0034
 釜石市中妻町 3-2-5



気仙サテライト

岩手県立大船渡病院附属
 住田地域診療センター2階
 029-2311
 気仙郡住田町世田米大崎 22-1



矢巾センター

岩手医科大学矢巾キャンパス
 マルチメディア教育研究棟2階
 028-3694
 紫波郡矢巾町西徳田 2-1-1



IMM集団結果説明会を実施

大槌町健康まつりに参加

9月14日（日）に大槌町が震災後初めて開催した「大槌町健康まつり」に参加。当機構のブースでは、特定健診参加型健康調査にご協力いただいた皆さまへ、集団結果説明会と個別相談会を実施しました。たくさんの方がお立ち寄りくださり、説明会も個別相談ブースも盛況でした。大槌町の皆さま、ご来場いただいた皆さまにお礼申し上げます。



▲結果説明会の様子



▲個別相談会の様子

専門家が「遺伝子」について詳しく説明

IMMいでん講習会

「いでん講習会」は、サテライト型健康調査にご参加いただいた皆さまにご案内しています。

講習会では、臨床遺伝専門医の福島明宗教授や認定遺伝カウンセラーの山本佳世乃助教が、遺伝子や遺伝病などについて、分かりやすく説明します。

皆さまのご参加をお待ちしています。



▲気仙サテライトで行われた遺伝講習会（11/5）



▲説明会后、個別に質問に答えるIMM教員（11/1）

健康コラム

vol.3

「目の健康について」



老化は目から

「老化は目から」という言葉がございますが、実際に目の病気は年齢とともに増えてきます。中でも、視神経が弱くなり視野が欠けてしまう緑内障と、網膜の中心部分が傷んでしまい視力が低下する加齢黄斑変性は、放置すると失明の原因になる怖い病気です。

老化を治すことはなかなか難しいですが、どちらの病気も治療によって進行を食い止めることができます。従って早期発見・早期治療が重要です。



第3回は、「目の健康」について紹介します。目には色々な病気があり、症状もさまざま。定期的に眼科検診を受けることをおすすめします。

OCT検査

緑内障や加齢黄斑変性の早期発見のために、人間ドックや健康診断では眼底検査が行われませんが、I-M-Mの健康調査では一部のサテライトにてOCT検査を導入しています。

OCTとは、

「Optical coherence tomography」の頭文字で、日本語では光干渉断層計と言います。OCT検査は、眼底に弱い赤外線を当て、眼底の各構造から反射して戻ってきた波を解析して、網膜の断面を映像化するものです。

網膜は厚さがわずか0.1〜0.3ミリの層の構造があります。これまでの眼底検査では網膜を平面的にしか見ることができませんでしたが、OCT検査では網膜の断面図・層構造を精密に見ることが可能です。

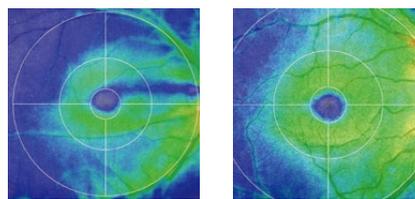
OCT検査では網膜の断面を見ることができ、新生血管の有無はもちろん、その大きさや形、深さなどもわかります。また新生血管と中心窩との位置関係を調べるにも役立ちます。



● 緑内障

視神経の線維が少なくなり、その部分に相当する視野が欠ける病気で、OCT検査で眼底の視神経線維層の厚みを測り、健常者のデータと比べて「どれだけ薄いか」を解析し、緑内障の変化が出ているかどうか判定することができます。

OCT検査での視神経線維層の欠損が、視野異常に先立ち検出されることもあり、緑内障の早期発見が可能です。



初期緑内障

健常者

● 加齢黄斑変性

緑内障網膜の下には網膜色素上皮という一層の細胞があり、その下に老廃物が蓄積するために網膜の中心部である黄斑が障害される病気で、加齢黄斑変性は見ようとするところが見えにくくなります。加齢黄斑変性には萎縮型と滲出型の2つの種類があり、滲出型では異常な血管（新生血管）が網膜の下から生えてきて、出血や血液成分の水漏れを起して強く網膜を障害します。

(監修:眼科学講座 助教 橋爪公平)



メガバンク事業を支えるスタッフ

vol.7 バイオバンク分野 (メガバンク・データ管理部門)



生活習慣と病気のなりやすさの関係について、長期的に調査する研究を「コホート研究」といいます。当部門では、住民の皆さまから提供いただいた血液や尿などの生体試料を厳重に管理しながら、将来のコホート研究のための基盤づくりを行っています。

バイオバンク・データ管理部門
特命助教 志波 優

人はなぜ病気になるのか、その問いに答えることができるようなバイオバンクの構築に向けて取り組んでいます。調査にご協力いただいた皆さまの検体を高い精度で保管するため、現場のスタッフと連携しながら作業を行っています。



バイオバンク・データ管理部門
特命助教 古川 亮平

皆さまの検体は、このようにして輸送されます！



採血後すぐに、高い精度で輸送するための処理がはじまります。検査や解析研究のため、この作業は必須。健診会場などには、この作業をする専任スタッフが控えています。



検体を遠心し、血液成分を分離します。

専用ボックスで、厳格な温度管理のもと、検査会社や保管先の東北大学へ輸送されます。



体質とは?

体質とは、遺伝的素因(親から子に伝わるもの)と環境因子(生活環境など)が合わさったものです。

例えば、両親が乾いた耳あかであれば、子供も乾いた耳あかになります(遺伝的素因)。また、麻しん(はしか)などの感染症は、まわりに麻しんのウイルスがいなければかかりません(環境因子)。

一方で、糖尿病、脳卒中、心臓病、脂質異常症、高血圧、肥満などの生活習慣病は、遺伝的素因と環境因子が合わさることで発症します。

仮に高血圧にかかりやすい遺伝的素因を持っていたとしても、生活習慣を含めた環境因子に注意して適度な運動をすることで発症を防ぐことが出来ます。



1MMのゲノム・オミックス解析研究

遺伝と環境の体質への影響の大きさはそれぞれ異なります。同じような食生活をしているのに糖尿病になる人とならない人がいたり、同じ家で生活していてもアトピーになる人とならない人がいます。このように病気の発症と環境との関連をみるためには、どのような環境で



生活しているか、どのようなゲノム配列を持っているかを併せて調べる必要があるのです。
現在、世界中で研究が行われていますが、病気にかかりやすい遺伝子を持っている人に、病気にならないための生活習慣のアドバイスを出来るようになることを研究の目標としています。



前月号(第6号)で、ゲノムはACGTの4つの文字で書いてあり、親から子へ受け継がれることを説明しました。それは、ヒトでも他の生物でも同じです。

ミジンコは、近くに捕食者であるフサカ(ボウフンの幼虫がいると、自らを守るために頭部がヘルメット型になります。そして、このような環境による性質の変化は、子に引き継がれます。生物は生まれもった遺伝的素因があり、生活環境や食生活などの環境因子と密接に関係しています。このように、環境や食生活の変化に影響を受ける遺伝情報のことを「エピゲノム」といいます。

(監修: 生体情報解析部門 特命教授 清水厚志)



方向感覚と言語

自分がどこにいるのかは、左右上下、前と後ろなど自分を中心に位置として認識している。日本語では、「階段の前」とか「あなたの左」などの表現を用いるが、オーストラリアの先住民の中に、位置を示す場合に常に東西南北などの絶対的な方位を使用するグループがある。

このグループではクウク語という言葉が使われており、どのような小空間(たとえば自分の部屋)でも位置を表すのに、右から左ではなく「東から西」と言う。例えば「右から左に道路を横切った」という日本語の表現では、その方向は中心となる人や相手がどこにいるかにより異なるが、クウク語では誰にでも同じ方向がわかる。まるでスマートフォン(GPS)機能がクウク語話者全員に備え付けてあるようなものであり、道に迷うことも少ないだろう。

今年のノーベル医学生理学賞は、「脳内GPS機能をつかさどる神経細胞の発見」に贈られた。その細胞の機能に関する遺伝子がわかれば、方向音痴の原因もわかるかもしれない。そういえば、沿岸が東側という岩手の約束事が日本海側では通用しなかったことを思い出した。こんな自分の遺伝子も見てみたいものだ。(に)



発行日
発行

2014年12月31日

IMMいわて東北メディカル・メガバンク機構
IWATE TOHOKU MEDICAL MEGABANK ORGANIZATION

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田 2-1-1 岩手医科大学矢巾キャンパス
電話: 019-651-5110 (内線 5508/5509) URL: <http://iwate-megabank.org>